

## 第28号

発行

北九州地区  
信徒使徒職協議会  
会長 濱 鶴松

編集

北九州信徒協広報部  
担当司祭 山元 真  
担当委員 岩本光弘

カトリック

北九州地区

## 信徒協だより

News Bulletin for Catholic Believers' Association in Kita-Kyushu Area

## 主な内容

- 1 面 平和の集い
- 2 面 東日本大震災
- 3 面 English Column
- 4 面 『Q & A』 寺浜神父
- 5 面 司祭紹介  
シンポジウム報告  
親睦レク日程
- 6 面 教区信徒協研修会  
ニュースあれこれ

8/7  
(日)

第11回

## 北九州平和の集い

日本カトリック平和旬間(八月六日〜十五日)に連動して

テーマ

## 希望に向かって



林尚志神父

一九八二年度司教総会において「日本カトリック平和旬間」が決定されました。北九州地区でも平和旬間に呼応しましょうと、二〇〇一年に第一回北九州平和の集いがスタートしました。司祭と信徒の協力により、今回で11回目を迎えます。

今年、下関を拠点として、長年幅広く司牧活動を展開しておられる林尚志神父を招きます。イエズス会司祭で、下

関労働教育センター所長、ACO(カトリック労働運動)全国常任司祭でもあります。東チモールや従軍慰安婦問題、原子力問題などを市民や信者と共に考え、社会の中で先立って働いているキリストと出会うことを大切にしておられます。最近、黙想指導や講話の中でよく話される言葉に「若者の反乱の無い所には死臭がし、年寄りの反乱の無い所にはあきらめの砂漠が広がる」

8月7日(日)

【午前の部】…平和祈願ミサ  
(各教会にて)

【午後の部】…平和の集い  
11:30…開場(小倉教会)  
13:00…開始・グループ発表  
14:20～…休憩(交流タイム)  
14:45…林神父のお話し  
15:30…平和祈願  
16:00…終了

(平和の集い実行委員会)

があります。反乱とは、先ず言論の自由がある内に発言するという事です。林神父が、どのようなお話しをしてくださるのか楽しみです。その他の発表グループとして、門司教会、JCN A(日本カトリック看護協会)、精神障がい者家族会、キリスト者九条の会そして外国籍信徒の方々を中心にジュビリーソングなど予定されています。子どもの広場もあり、信仰育成部会も担当の皆さんと協力しあって、準備をすすめています。平和の取り組みをアピールするグループも、例年通り出店します。小倉教会のカレーも用意されます。一年に一度の平和の集いですので、平和を求める人々をぜひ誘ってご参加下さい。お待ちしております。

## 【平和の集い献金先】

- ① 東日本大震災被災者支援
- ② 東チモールへの支援

◆◆◆◆◆  
平和旬間について

平和への努力は、すぐれてキリストに従う行為であり、現代の世界にあって、「時のしるし」としての行為である。

日本のカトリック教会は、教皇ヨハネ・パウロ二世がわが国を訪問し、世界で唯一の核被爆地・広島と長崎で世界に向け、平和アピールを力強く発表され、訴えられたことに、特別の意義と使命を感じ、平和への努力が「日本のカトリック教会の使命」であると確信した。

以下略/1982年

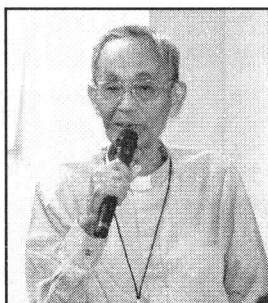
若松教会主任

鵜野泰年神父

六月二十九日

## ご逝去

(6p、深堀信徒会長の追悼のことばを掲載)



昨年9月20日、福岡教区信徒協研修会で発言する鵜野神父

# —いま私たちにできること—

## 東日本大震災から四ヶ月

北九州地区の各教会では被災地の方々のためにミサのときに共同祈願や復興のための祈りや募金をしています。その他の支援の取り組みをした教会の内容を報告します。

【黒崎教会】毎月第二日曜日に、募金を呼びかけています。被災地の、特に行政から目の届きにくい方々のために、CTIC（カトリック東京教区国際センター）へ送金し、被災地の情報をいただいています。

【小倉教会】被災地支援を長期間にわたって続けるために、聖堂での義援献金だけではなく、6月より毎月一回のミニバザーを行い、その売り上げ全額を支援先に送ることにしました。なお、このバザーは毎月販売品を特定して変えることにしています。菓子と喫茶に限った6月は13万円の売り上げがありました。

また、地域の人や地区の教会に呼びかけて、聖堂で被災地支援の集いを行います。集いの内容は、被災地支援に関する話やコンサートなどです。7月3日には第2回の「支援の集い」が開かれ、二人の話に続いてヴァイオリンとオルガンの演奏がありました。

【湯川教会】3月18日、ピンセンシオアパウロ会仙台協議会より湯川教会へ物資の要請がありました。下着類、パーカー、靴下などを用意して送りました。教会ではカンパ活動が続いていますし、7月・8月には納涼祭やチャリティーバザーなどで募金を集める予定です。

【水巻教会】個人で現地につながりがある人が、現地で必要な物を聞いて教会の人たちに呼びかけて送りました。

【門司教会】インターネットで福島の野菜を取り寄せて教会で販売しました。

【飯塚教会】ミサでの共同祈願で祈りをささげています。一過性にならないように心がけ、聖堂に献金箱を置き呼びかけるようにしています。

### 2010年度決算報告書（北九州地区信徒協）

収入の部	決 算 額
繰越金	124,708
会費	952,300
教区信徒協助成金	30,000
合 計	1,107,008
支出の部	決 算 額
教区信徒協納付金	98,000
青年部会費	93,584
親睦レク費	32,208
平和の集い費	150,000
広報部会費	180,640
研修部会費	15,000
聖書部会費	122,025
礼部会費	50,669
社会福音部会費	20,630
社事務信の費	68,736
通そ役員の交通費	37,780
繰越金	105
繰越金	93,000
合 計	1,107,008

#### 北九州信徒協

五月二十九日(日)、二〇一一年度第一回代表者会議が開催されました。前年度の会計決算と監査報告がなされ、承認されました。今年度も平和の集い(八月)、親睦レクリエーション(九月)、研修会、司祭団との懇談(二月)を中心に活動をする予定です。各部会からの呼びかけも多々ありますので、ふるってご参加下さい。

#### 教区信徒協の役員について

\*教区信徒協の役員は4地区が2年交代で主幹を務めています。前年度までで北九州地区の担当が終わりました。

今年度から2年間は福岡地区が担当しますので、教区の会長は福岡地区の目良さん(大名町)になりました。前年度の会長は顧問として残りますので、前会長の濱さん(黒崎)が顧問として残りました。

北九州地区からの役員として次の人たちが、今後2年間教区役員として代表者会議に出席することになりました。

- ・濱 鶴松(黒崎) 顧問
- ・追立 泰治(行橋) 副会長
- ・北川 卓也(小倉) 役員
- ・瀬下 幸弘(黒崎) 役員
- ・岩本 光弘(水巻) 広報



## Message of Japanese Catholic Bishop Group To a Restruction from Great East Japan Disaster

Dear, brother and sister,

Three months was past from the Great East Japan Disaster occurred at March 11th. By this disaster, twenty thousand people were died and great amount of people are still missing.

Merciful Lord, accept died persons, who had no time to tell departs with their family and their friends, in your hands. And also give hopes to the family and the friends, who are survived and remained, to live and overcome sadness. Houses, factories, farms, and bays were suffered damages. Nuclear power plant had also serious damages. Many people are living at refuges or portable housings with less useful lives.

God of salvation, look after people who cry to you from sadness. And get rid of heavy loads earlier. May bring of binds of family and home town. There is no termination on nuclear plant accident. It takes a long way to revive from the Great Disaster.

In the congress of Bishops held from June 13th to 17th, we accepted the word by Paulo, whether one member sufferth, all the members suffer with it, or one member is honored, all the members rejoice with it (Corinthians 12:26) “, and decided to work to restruct more forcefully.

Since now, Catholic church supported the disaster mainly by Caritas Japan. However, because of a huge amount of damages and a long time, which takes to reconstruct from the great suffering, we decided that all the diocese support directly and concretely. Accepting the consicious of bishops, we call priests, monks, and brothers and sisters, to co-operate continuously.

We thank your supports and prays from domestic and foreign regions. Let's pray to be able to walk together.

June, 17th, 2011, Last day of congress of Bishops,  
All member of Japanese Bishop group

### 日本カトリック司教団メッセージ「東日本大震災からの復興にむけて」

兄弟姉妹の皆様

#### 東日本大震災からの復興にむけて

3月11日の東日本大震災からはや3カ月が過ぎました。今回の東日本大震災によって、2万人近い方々が亡くなられ、いまだ、多くの人々が行方不明のままです。私たちは祈ります。

いつくしみ深い神よ、家族や友人たちとの別れを語ることで死にたくなられた方々をあなたのみ手のなかに受け入れてください。また、遺された家族や友人たちにこの悲しみを乗り越えて生きていく希望をお与えください。また、住宅、工場、田畑、港湾などでも大きな被害がでました。さらに、原発事故による被害も甚大です。多くの人が避難所、仮設住宅などでの不自由な生活を余儀なくされています。私たちは祈ります。

救いの源である神よ、苦しみの淵からあなたに叫ぶ人々を顧み、その重荷を一日も早く取り除いてください。家族や地域の絆を回復し、希望のうちに共に歩むことができますように。

いまだ、原発事故収束の見通しもついていません。東日本大震災からの復興は長い道のりになるでしょう。6月13日から17日に開催された司教総会において、私たち司教団は「一つの部分が苦しめば、すべての部分が共に痛み、一つの部分が尊ばれれば、すべての部分が共に喜ぶのです」（コリントの信徒への手紙一 12:26）と切実に語るパウロの言葉を実感し、復興支援により一層力を入れて取り組むことを決意しました。

これまでカトリック教会ではカリタスジャパンを中心に支援活動を行ってきましたが、被害の大きさ、復興の長期化に鑑み、日本の全教区が直接に、そして具体的に、復興にむけての支援にあたることを決定しました。司教団の意図を汲んでいただき、司祭・修道者をはじめ、兄弟姉妹の皆様継続的な協力を共にするよう呼びかけます。

最後になりましたが、国内外の皆様の祈りとあたたかい支援に心から感謝いたします。今後とも共に歩めるように祈ります。



# Q & A コーナー

## 「今の厳しい時代のなかでの信徒の召命」

前回に引き続き現代社会を生きる信徒の皆さんの召命について考えていきましょう。

司祭・修道者は神学校や修道院でそれぞれの召命が育まれ、教会や各自の場で福音宣教者として歩んでいます。

信徒の皆さんは？ 神学校や修道院でなく、教会、家庭、社会の中でその召命が育まれ福音宣教者として派遣されています。

信徒の皆さんの召命はさまざまな場にこそあります。このなかで大切なことは、特別な役割、目に見える活躍だけでなく、一人ひとりができるのか、それぞれ何ができるのか、それぞれのかを知ることです。

今の厳しい時代のなかでの信徒の皆さん召命は「お

互いに分かり合える、お互いに支え合う」ことです。

さまざまな場で、多くの人々が厳しい現実の中を歩んでいます。この厳しさは決してうれしい、心地よいものではありませんが、厳しさを知りその苦しみを経験していれば、同じ厳しさのなかにある方々の苦しみ痛みを分かり合えることができるのではないのでしょうか。

「あなたのことはよく知らない」、「あまり関わったことがない人のことだ」ということがあっても、「私もあなたと同じ苦しみを経験したことがある」、「あなたのその痛みは私にはわかる」、「今私もあなたと同じ厳しさ、苦しみのなかにいる」、だから私はあなたのことがよくわかる。この互いの痛みを分かり合えることが、大きな支えとなるのではないのでしょうか。こうして「私一人」が、「私たち皆」というひとつの大きな力になります。

信徒の皆さん一人ひとりがさまざまな状況のなかで、その厳しさ、苦しみを多く知っておられます、ですから同じ

状況にある多くの方々の厳しさ、苦しみが理解できます。この多くの方々がお互いに分かり合えることは信徒の皆さんの召命の目に見える働きのひとつではないでしょうか。これが教会の力、強さです。

皆さん、日本はまさに今厳しい深刻な状態です。

東日本の地震・津波の被害状況、被災された方々の厳しい現実、苦しみや痛み。それらはテレビや新聞、インターネットなどの中だけに起こっていることではありません。私たちが生活している日本で実際に起こっていることです。

地震直後に、また地震の二か月後の被災地に行かせていただきました。直後に訪れた被災地は想像を絶する状況でしたが、二か月後に訪れた際も厳しい状況はほとんど変わっていませんでした。現在も多くの方々が本当に困難な状況のなかで厳しい現実を強いられています。

東日本の震災は遠く東北地方で起きた自然災害ではありません、被災地のあまりにも甚大なさまざまな被害、また東北地方だけでなく関東の空

港や駅も電力不足と節電のため、九州から来たわたしたちが驚くほど暗いです、物資が不足したり、暑くてもエアコンを今まで通り使えなかったりと厳しい状況がこれからも続きます。

この現実を一人ひとりが自分たちの痛みとし、厳しい現実のなかにいる方々の苦しみを忘れない、さまざまな厳しさを知っているからこそ、同じ痛みを互いに分かり合うこと、これが厳しさのなかにある方々の支えとなり厳しい時代、現実を乗り越えていく大きな力となります。

被災された方がおっしゃっ

今年のワールドユースデーは、スペインのマドリードで開催されます。北九州地区からも5名の青年が参加することになりました。夏休みを利用した大学生が中心の参加ですが、参加者はアルバイトなどをして参加費用を工面しています。

信徒協でも参加費用の負担を軽くするために対

## WYDについて

策を取っていますが、十分ではありません。これらの教会を支えていく青年たちを快く送り出すためにカンパやご声援をお願いします。

北九州地区からの参加予定の青年たち

- ・内藤道子さん
- ・岡崎真一くん
- ・林 祐衣さん
- ・有吉優里さん
- ・高瀬理沙さん

ていたことがあります「今までは九州に台風が来ても何も意識していなかったが、震災後は、遠くで起きた自然災害でもそのこわさ、つらさがよくわかる」と。

良きサマリア人のたとえのなかにも、「隣人を自分のように愛しなさい」とあります。「誰が迫いはぎに襲われた人の隣人になったと思うか。」律法の専門家言った。「その人を助けた人です。」イエスは言われた。「行つてあなたも同じようにしなさい。」

(ルカ福音10章25〜37節)

(直方、田川教会・寺浜神父)



## 司祭紹介コーナー

新田原教会 協働司祭  
谷口 尚志 神父

1982年5月14日生 29歳  
福岡市生まれ。

『司祭談』今年3月21日に叙階を受け、司祭生活4ヶ月目に入りました。早いと言いかげなく、気が付けば日が昇り、気が付けば日が暮れているという毎日です。一日一日が早く過ぎていくので、早く自分の課題を見つけて早めに取り掛からないといけません、なかなか効率よくこなすことのできずにいる今日この頃です。

新田原教会に着任したのは4月3日(日)の午後。荷物を早く部屋に運び込まなくてはならなかったのですが、外で数人の子どもが遊んでいるのを見掛けたため、その中に混ぜてもらって一緒に遊んでしまいました。これまで何度か教会学校の夏のキャンプや四旬節の黙想会に顔を出させていただいたこと、また、昨年度の夏休みには一ヶ月滞在させていただいたこともあったので「その本人が着任するとは」と、少し驚かれながらも(私が一番驚いていたわけですが)笑顔で心から歓迎して下さいました。本当にありがたいことです。司祭に叙階された今、皆様への恩返しとして毎日の日々を送っていく決心をしています。まだまだ未熟な私ですが、どうぞよろしくお願いいたします。

『信徒談』感激の叙階式から四ヶ月、叙階式の帰りのバスの中で「谷口神父が新田原に来るといいね」と話していた子どもたちの願いがかない、信徒一同喜んでます。

赴任当日、司祭館への挨拶もそこそこに出迎えの子どもたちと一緒に遊んでいました。

一人でも多くの青年や子どもたちへ「叙階の恵みと喜び」を伝えて欲しいと思い、「青少年の憧れの星」に信徒一同心を込めてエールを送ります。

## 5/21(土) シンポジウム 報告

### ● 信教の自由と政教分離 ●

憲法20条は、子どもの将来を守る大切な基本的人権

始めに小倉教会主任

山元神父は次のように

挨拶されました。「私

たちが生きていく上で、

本場に大切なこと、そ

の土台を共に見つめて

いくことができること

は本場に嬉しいことで

あり、キリストを信じ

る者として、使命を再

確認できる時と思います。」

200人が集った聖堂には、

このシンポジウムから多くの

ことを学ぼうと、熱気に満ち

たものが感じられました。

一番目の溝部脩司教は「憲

法20条をキリシタン史より考

察する」テーマでした。冒頭

で、迫害はキリシタン側の頑

固さにも起因すると話し、遺

物崇拜や宗教的熱狂が迫害へ

と駆り立てていったというの

もキリシタン史にあるという

ことの例を示しました。また

有馬の殉教、浦上での迫害、

遠藤周作の小説などに触れな

がら、教会側の論理と為政者

側とのぶつかりを「結局は国

是」との対立にあると述べ、

現代においても「神の国」発

言や「美しい国、日本」

などの本を書いた人の

中に「国づくり」が根

底にあるが、ある宗教

だけが特恵に選ばれる

ことに賛成できないし、

教育基本法改正の危惧

もそこにあると話され

ました。

二番目は、森上洋介牧師。

「神様を無視するこの世の権

威」をテーマに、ご自身の経

歴の特徴を述べました。そし

て神格化された権力者の社会

に真の神が入ってくることで、

戦いが始まり、それは現在も

続いている、この世の権威と

ぶつかった時、キリスト者は

どうすべきかの点で、ローマ

の信徒への手紙13章を示しま

した。但し、この箇所解釈

を過まれば、神を認めないこ

の世の権威と妥協してしまう

危険性も指摘しました。

谷大二司教は「入門・憲法

20条」をテーマに分かりやす

く説明しました。戦前戦中ま

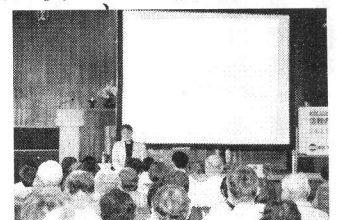
では信教の自由がなかったこ

と、国家の宗教に強制参拝さ

せられていたことから今の憲

法20条ができたことや、政教

分離の歴史的背景について話



しました。スライ  
ドを使って行う説  
明は、参加者にと  
ても好評で、憲法  
20条の大切さが理  
解できたようでした。

その後の「質問  
に答えて」では感  
想や意見も含めて40点以上  
が寄せられ、今回のシンポ  
ジウムへの関心がいかに高  
かったかを示した一日だっ  
たと感じました

秋の

# 親睦レクリエーション

## 9月19日(月)敬老の日です

### ふるってご参加下さい

親睦レク実行委員長／北川卓也(小倉教会)

## 追悼 鵜野神父様

私たち、若松共同体は6月29日 20時50分に大切な支柱を失いました。鵜野神父様の死です。

神父様の晩年と私の関係を思い起こすとき、見舞いに行った時の神父様の姿しか思い浮かびません。

時には饒舌に、時には寡黙に、いつ病院に行っても眠り込んでいた神父様が、26日のミサ後に行ってみると目を開けてDVDを見ていました。「神父様」と声をかけると「あなたが来た時に初めて起きていましたね。今日は調子がいんですよ」と言い、「ちょっとトイレ」と言って軽やかにベッドから起きてトイレに行きました。

私は「一安心だ」と喜んで帰ったのですが、3日後にこのようなことになるとは思いませんでした。

神父様を見舞いに行く度に「今度の説教ではこれを話していいですか」と信徒の皆さんに話したいことがたくさんあったようですが、それも叶わず天に召されてしまいました。

どうか安らかに天国で過ごして下さい。そして私たちを何時まで見守ってください。

若松教会 信徒会長 深堀 善広

## 教区信徒協研修会があります

■日時／9月23日（金）午前10時20分～16時30分

■場所／カトリック大名町教会

■テーマ／教会の明日に向かって

■サブテーマ ナイス（福音宣教 理解と実践

■対象／どなたでも

■参加費／無料（席上献金呼びかけ予定）

■基調講演者／森 一弘司教

■お問い合わせ、参加ご希望は地区信徒協代表者へ

■詳細は後日、教区信徒協よりあります。

## ニュースあれこれ

◆若松と戸畑のミサの時間が変わります。

鵜野神父が亡くなられましたので、当分間、戸畑教会の中村神父が兼任されます。そのため、二つの教会の日曜日のミサの時間は次のようになりますのでご注意ください。

八時半 若松教会  
十時 戸畑教会

◆東日本大震災の支援について

すでに各小教区で支援の募金などが行われていますが、福岡教区では6月5日に支援のための話し合いが行われました。北九州地区信徒協でも支援をどうするか協議が行われています。

カトリック教会には教区間のつながりがあります。

北九州での協議では、漠然と支援をするのではなく、相手の顔が見える支援を長く続けたらどうだろうかという意見もあります。カトリックの信徒らしい、心のこもった支援をしたいものです。

◆学びと分かち合いの出張致します。

信教の自由と政教分離のシンポジウムで、様々な質問が寄せられました。例えば「神幸祭など、地域伝統、文化としての公費支出は許される範囲ではと考えます。キリスト者としての対応は？」「国家神道と伝統的神道との関係はどうなっているのですか？」

「原発問題も学びたい」などです。カトリック二十条の会は、要望があれば、どの小教区にも出かけて行きます。もちろん費用は一切不要です。

二、三人おられれば、学びと分かち合いが出来ますので、いつでもご連絡下さい。

電話／（〇九三）622—

1289（瀬下まで）

## 編集室の窓

\*東日本大震災のためにどの教会も支援に取り組んでいます。が、長い期間の支援をするためのプランが必要と思われます。現地のことについてテレビやラジオでの報道では知っていても、九州と東北では距離があります。支援が

ランティアに行くと、一人10万円くらいの費用が掛かります。簡単に出来ることではないのです。

\*風評被害とは本当に怖いものです。原発被害に関係ない九州へ外国からの観光客が激減していますが、東南アジアの国では、日本からの入国者全員の放射能検査をする空港がありました。情報が正しく伝わってないのでしょうか。

\*鵜野神父が亡くなられました。鵜野神父は誰の話でも良く聞かれる方でした。

この話は参考になると思っただけで、その元はこのノートにあったようです。鵜野神父の温かい人柄がしのばれます。

\*高松と大分に新しい教区長が誕生しました。9月には広島にも新しい教区長が赴任されます。私たちの指導者として教会だけでなく、担当される地域にも影響を与える指導者になっていただけることを期待しています。（岩本）